

議員提案第52号

ヒブワクチンの早期定期予防接種を求める意見書の提出について

このことについて、次のとおり意見書を提出するものとする。

平成22年3月23日提出

新潟市議会議員

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

藤田 隆
渡辺 仁
青柳 正司
下坂 忠彦
串田 修平
木村 文祐
遠藤 哲
渡辺 孝二
小山 哲夫
渡辺 有子
本岡 良雄
室橋 春季
加藤 大弥
小山 進

ヒブワクチンの早期定期予防接種を求める意見書

ヒブ(Hib=ヘモフィルスインフルエンザ菌b型)は乳幼児の細菌性髄膜炎の原因になる細菌です。

細菌性髄膜炎は、抗菌薬(抗生物質)による治療にもかかわらず、約5%が死亡し、約15%から20%に後遺症が残ってしまう恐ろしい病気です。

日本では細菌性髄膜炎の3人に2人はヒブが原因で起こっており、その患者数は日本外来小児学会によると、5歳未満の子供で全国に少なくとも年間600人以上に上ります。

また、細菌性髄膜炎は発症後の治療には限界があり、罹患前の予防が非常に有効です。

近年では、抗菌薬に対するヒブの耐性化が急速に進展しており、ヒブ感染症がさらに難治化する傾向にあります。また、ヒブは飛沫感染により伝播することから、早期保育など乳幼児における集団生活機会の増加により、子供たちがヒブ感染症に遭遇する危険性はさらに高くなると予想されています。ヒブはワクチン接種により効果的に予防することが可能であり、ワクチンを定期予防接種化した国々では発症率が大幅に減少しています。

WHOも1998年にヒブワクチンの定期接種を勧告し、現在110カ国以上で接種されています。

我が国においては、ヒブワクチンが2007年1月に承認されましたが、任意接種のため患者の費用の負担が大きく、ワクチンの導入にはいまだに高い壁がある状況です。ヒブワクチンは国内の細菌性髄膜炎の多くを防ぐことができるとともに、医療費の削減に貢献する度合いが極めて高いことから、細菌性髄膜炎の予防に関する早期定期予防接種化が急がれます。

よって、国及び政府に対し、速やかにヒブによる細菌性髄膜炎を予防接種法による定期接種対象疾患(一類疾患)に位置づけることを強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

平成22年3月23日

新潟市議会議長
志田 常佳

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
厚生労働大臣

あて